

## 高齢女性こそ「資格」を

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事・稲葉敬子

今回、「女一生の働き方」調査の集計を実施しながら感じた事は、さすが、本会会員対象の故か、いわゆる「手に職」をつけている方が多く、そういった方の多くは、定年までずっと勤めあげたり、また、子育てなどで一時仕事を辞めても、すぐに復職し、ずっと勤める方が多いと感じた。

しかし、最も回答の多かった70代の高齢女性の場合、世の中の多くの家庭では、「オトコは外で仕事、オンナはうちで家事育児」というセオリー通り、専業主婦として、夫の扶養家族になることに、何の疑問も持たなかった方が多い時代だ。その時代を生き抜いた主婦が、子育てが一段落した中年以降に働こうとすると、いわゆる「非正規雇用」の仕事しかないと言うのが現状だろう。

まして、65歳を過ぎてから仕事を見つけようとするとなかなか大変で、思うように働けないのが現状だと思う。

そんな中で、積極的に中高年を雇用している会社がある。熱海を中心に、全国で高齢者マンションなど高齢者施設を運営している会社である。

そこでは、働く女性の多くが中高年以降で、60代、70代は当たり前、75歳以上の後期

高齢女性も多く働いている。

かくいう私も、75歳から80歳までの5年間、館付ナースとして働いた。

ただ、そこで働く中高年女性のすべては、きちんとした資格を持っている。

介護関係では、介護福祉士やケアマネジャー、2級ヘルパーなど。医療関係では、ナースの資格。そこでは、入居者が若く、身の回りの事を自分でできる間は、医療や健康の相談に乗ってくれるナースが重宝されたが、入居者が年を重ねるにつれ、身の回りの世話をしてくれる介護関係者を求めるようになった。まして、「終の棲家」として看取りを希望する入居者にとって一番助けになるのは、介護関係者であることが衆知の事実になってきた。

高齢になってから、ナースなど医療系の資格を取得するのはなかなか困難だが、日常生活を支える介護スタッフの資格は取りやすい。

私が今、介護専任教員として関わっている「東京しごと財団」が主催する初任者研修の受講生のうち、65歳以上の高齢女性の割合は15パーセントで、そのうちの80パーセントは、資格取得後就職しているというデータがある。

簡単な面接でオーケーになれば、7000円ちょっとの教材費を払うだけで、3ヶ月近くの初任者研修を簡単に受講できる。

これからの超高齢社会の中で、最後まで自分らしく生き抜くためには、介護スタッフの存在は不可欠である。

「徒手空拳」ではなく、きちんと資格を取り、「BBばあさん」にならないよう、自信を持って社会のために働いてもらいたいものである。